

“失業と健康”研究会

News Letter

第 12 号

2004 年 11 月 1 日発行

ICOH 第 3 回失業と健康に関する国際カンファランス、ドイツ・ブレーメン

的場 恒孝 (ICOH 科学委員会世話人・久留米大学名誉教授)

失業の心理学的研究では社会構造を考慮

社会文化や“家族”の役割も大切！

ICOH 第 3 回失業と健康に関する国際カンファランスがドイツのブレーメンにおいて開催された。この会議はパリ(1998)、アデレード(オーストラリア,2001)に続いての会議である。主題は「不安定な就労と恒常的失業 -その研究と政策」であった。会議は Keynote Address 5 編、Workshop 1 2 編、Roundtable Discussion 4 編によって構成された。参加者は世界各国から 80 名余であった。日本からは 4 名参加していた。ブレーメンは北海に近く、会期の 3 日間は天気が不安定で、急に晴れ、急にシャワーがあつて冷たい風を伴っていた。昼間の気温は 15℃と日本の秋だった。

Workshop のテーマは、失業への理論的アプローチ、干渉、健康状態と健康行動、若年者の失業、失業の心理的影響、失業とアルバイト、両親の失業と子供への影響、仕事の非安全性、社会的援護と転職、活発な労働市場策の役割であった。また Roundtable Discussion では、downsizing と転職の調和の展望、雇用の再評価(不安定な雇用、非安定雇用)、労働市場政策と干渉、そしてまとめの討論が持たれた。このように、多岐にわたっての討論が行われた。主会場と 2 会場に分かれて WS が同時に行われた。

失業と健康問題での心理学的研究においては社会構造を考慮する事が大切である。年齢層、労働市場、経済状況、社会保障、文化、教育などである。またサポートする「家族」の役割が大切であることが複数の発表で見られた。家族の役割の点は日本国内の社会環境でも失われて来ていることである。

カンファランスをまとめると、労働者の健康が失われるのは、downsizing によって労働者数の減少で労働過剰になる。転職や新企業で新たなストレスを受ける。賃金が減少して家庭経済力が低下するなど、健康障害が生じる。失業となれば一層健康が失われる。失業者の健康保持では社会的援護が大切である。根底には失業者を“労働者予備軍”と見なす。長期政策として失業手当支給期間の見直し、失業中の労働への意欲の保持、技術の保持、教育では人生観の見直しである。人生観では 80 年の生涯で労働期間はほぼ半分である。失業をどのように受け入れるかの考え方を構築する。また持続する雇用を確保するために政治と経済界の対策と活動が必要である、などが論じられた。

次回は 2006 年イタリア・ミラノで ICOH 会議とジョイントして開催される予定である。

第10回研究会記念講演：「職場メンタルヘルスと対話技法」

高田 和美（産業医科大学客員教授）

忘れがちな対話としての周辺配慮技法

演者が長年の三井石油化学での産業医として実践してきた中から、そのノウハウを語った。その中から列挙すると、社員が入院した場合には産業医と産業保健スタッフが訪問する。産業医の許可が無ければ、職場からの見舞いは遠慮する。入院は家族とのコミュニケーションを大切にす
る良い機会になる。同室の患者との挨拶や会話から地域を知り、自分の対応力を確かめるチャンスになる。同僚の見舞いは退院日が明らかになったとき、病状が安定したとき、患者が希望した
ときに限る。このようなルールは精神科の場合にも通じる。

職場復帰の初日は衛生管理室にし、産業医、所属長との三者が復帰後の勤務様式、勤務内容、
通勤方法などについて話し合い、その結果を「産業医意見書」として発行する。本人が転勤、配
置換え、退職の場合には、所属長はその意見書を産業医に返却する。このような復職方法で、復
職後の健康相談や所属長からの情報連絡がスムーズにいき、再発や悪化を防ぐことができる。

本人は病気休業中に気づいた職場の設備、作業マニュアルなどについて、産業医に話してほし
い。何故なら産業医を通じて職場に伝えた方が改善されやすいのである。

社員は、その日の心と体の不健康を所属長に率直に伝えること。それによってその日の時間外
労働を他人に替わってもら場合も生じる。

「心の健康相談」は、ある電話番号に連絡してもらうことに決めておく。相談内容を聞かない
で、本人に相談場所を選んでもらう。応接室、診察室、あるいは庭を歩きながら、聞く。机を挟
んでペンと用紙を広げると満足に話し合えない。対話の後、飲み物を勧めると、本人がどの程度
満足したかがわかる。

産業保健従事者にとって、今日からの保健活動に直接役立つ事柄である周辺配慮技法であった。

お知らせ

◆次回の第11回研究会は、**05年3月12日（土曜日）14:00—17:00**です。

* 予定プログラムは

〔1〕「事例から」田村 昭彦（九州社会医学研究所所長）

〔2〕その他

* 会場は久留米大学医学部・基礎2号館1Fセミナー室です。

ぜひ、ご参加ください。

◆本誌 “News Letter” を入用の方は、お知らせ下さい。

世話人：的場恒孝（代表）・高田和美・酒井 淳・石竹達也・山岡春夫・児玉英嗣

[事務局] (〒830-0011) 福岡県久留米市旭町67 久留米大学医学部環境医学教室内

“失業と健康” 研究会

Fax: 0942(31)4370 Tel: 0942(31)7552 E-mail: kankyo@med.kurume-u.ac.jp